

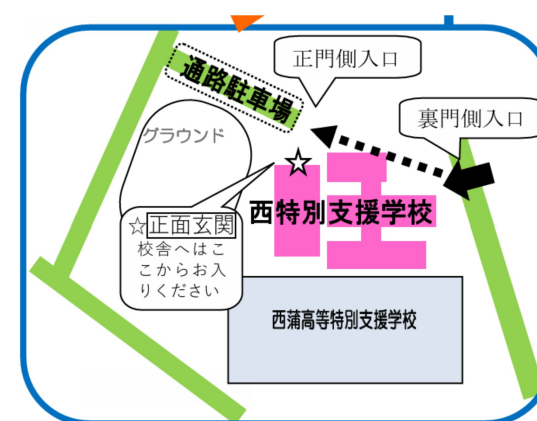
馬場ひでゆきの活動日誌

No.91

特別支援学校送迎
親の重い負担

送迎のために離職も

「自立支援」との矛盾



小学部中等部のある西特別支援学校は新潟市立、高等部のある西蒲高等特別支援学校は新潟県立。二つの校舎は隣り合っています。

新潟市西蒲区の新潟市立西特別支援学校に通う生徒の母親から「話を聞いてほしい」と言われ、1月19日、保護者の方々と面会してお話をすることができました。今回はその報告です。

話してくれたのは、同校（小学部と中等部）の中等部に在籍する生徒の保護者さんたち（下の写真）です。

要望の内容は、同校では新潟市がスクールバスを出してくれてとても助かっているのですが、同校に隣接する西蒲高等特別支援学校にはスクールバスがない、何とかスクールバスを出してほしいというものです。

●高等部にスクールバスがない
保護者の一人は、次のように話してくれました。

「子どもは現在中等部1年。重度知的障害、ADHD、自閉症を抱えています。一人で公共交通



左は保護者の皆さん。右端の男性は、ただだ勝利新潟市議会議員（日本共産党）。じっくりお話を聞きました。

通を利用することはできません。今は、スクールバスがあるから助かっています。でも、高等部への進学がすごく不安。スクールバスがないと送迎は家族の負担になります。タクシーを利用したり、保護者仲間でバスを走らせるとしたら、費用がかかりすぎます、家族が送迎するとなると、離職せざるをえません」

「だからといって進学を断念したくはないです。重い障害があっても、子どもはゆっくりだけでも成長します。親としては、高等部の3年間で生活スキルを一つでも二つでも学ばせてあげたい」

●高等部は自力での通学が基本？
高等部の通学支援の問題は、新潟市議会で幾度も取り上げられてきました。

しかし、新潟市がしてきた回答は、①県立の生徒の通学に関するところだから、県が対応すべきである、②県教委は自立と社会参加に向けた取組を推進している、自力での通学を基本にしている、という素っ気ないものでした。

なお、後日、上越地域の特別支援学校にも問合せしてみました。ある学校は小中高とも親が送迎しているという回答、別の学校は、今年度は福祉事業者の無償の送迎を利用している生徒もいるとの回答でした。それぞれの学校の事情で送迎の支援は異なっているようです。

●「自立」が困難な人もいる

たしかに障害者が自立することとは大切ですが、障害の程度は様々であり、自立すら困難な方もいます。そういう方々に支援の手が差し伸べられないのであれば、結局は、家庭にしわ寄せがきます。保護者が離職したり、或いは子どもの進学をあきらめさせることになります。これは、福祉の理念の放棄です。

保護者の皆さんからはじっくりお話を聞くことができました。新潟市議会のただだ勝利議員にも参加してもらって今後どのような要望をしていこうか話し合いました。頑張ります。

募集中

出張馬場のおしゃべり会

少人数の「おしゃべり会」をさせていただける場を設けてくださる方を募集中です。

お茶飲み友達や、趣味の仲間などにお声掛けいただければうれしいです。ご希望があればどこでも行きます！この時期こたつでお話会も大歓迎！

お問い合わせは事務所まで。
☎025-546-7110



私の推し本その29

唯円著「歎異抄」(岩波新書)

この本に出会ったのは、高校の倫理社会の授業でした。私の家は浄土真宗です、その宗祖の言葉が書かれてあるのですから、自然に興味を湧きました。

まず、惹かれたのは、「をのをの十余ヶ国のさかひをこえて、身命を顧みずして訪ね来たらしたまふ御ころさし、ひとへに往生極楽のみちを問い聞かんがためなり」という一節。弟子たちが、親鸞の教えを聞こうとして、命がけではるばる遠くからやってくる。そこまで人々を惹き付ける親鸞の教義って何なんだ？とワクワクします。

そして、有名な「善人なおて往生を遂ぐ。いわんや、悪人をや」の一節です。普通は、善人であれば浄土に行けるのを当然と考えます。でも親鸞は、悪人こそが浄土に行けるんだと言うわけです。これを読んで世界観がまるっきり変わりました。

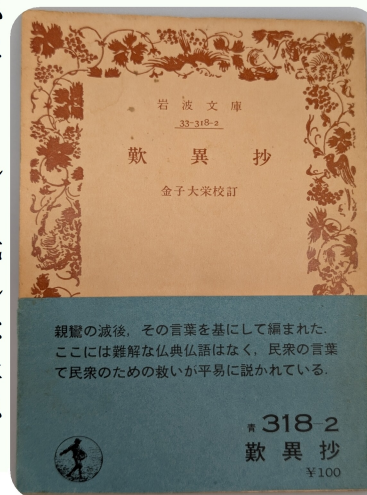
その当時は、高校生ですから、悩みを抱えて自分に自信がもてない、他者と自分とを比較して劣等感もっていました。

でも、親鸞は、「人は皆本来悪人なんだ、自分が悪人ということに気づいて阿弥陀にすがるとしかないと思う人こそ、本来は救われる人なんだ」と言ってくれたんです。悪人こそが救済の対象なんだというわけですから、救われた気分になりました。

でも、どうして、こんな宗教ができてきたのでしょうか。

浄土真宗が生まれたのは、鎌倉時代。それまでの平安時代の仏教は貴族だけを救済する仏教でした。しかし、新しい時代になり、武士を先頭とする民衆の力が上昇していった、その一方で又末法思想も広がった、そういう状況で、民衆が自分たちの魂の救済を求めるようになりました。そこで登場したのが、法然や日蓮、親鸞の民衆を救うことを目的とした宗教でした。

法然や親鸞は、南無阿弥陀仏と唱えれば誰でもが極楽浄土に往生できると説きました。そして、国家権力とのくされ縁を断ち切り、民衆の魂を救うことに専念しました(だから、弾圧されました)。その教えは、農村に住む下級武士や農民にまで広がっていききました(家永三郎著『日本文化史』など)。そう、親鸞は、今だったら社会活動家だったんだろうなと思います。しかも、凄く情熱的な！



右から二人目から左に橋爪さん、私、小堺医師。

松代病院を守る会慰労会 小堺医師を囲んで

1月18日、十日町市松之山で「松代病院を守る会」の会合があり、日本共産党上越市議会議員の橋爪法一さんとともに参加しました。

私は、「松代病院の無床診療所化をストップできなかったのは無念だ。しかし、皆さんの「松代病院を守れ」という運動は素晴らしかった。これから、柿崎病院、妙高病院でも同じような問題が起こってくる。皆さんの住民運動は、それぞれの地

域の皆さんのお手本になり、そして励みになるものだった。議会で無床診療所化が議決されたものの、その具体的内容はまだ決まっていなかった。皆さんが築き上げた団結力は、今後の松代松之山の地域医療体制を守っていくためにも、なお一層必要になってくるはずだ。今後ともに頑張りましょう」とご挨拶させていただきました。

橋爪さんは、病院説明会の際、橋爪さんが発言をした後に続いて小堺医師が現役の県職員でありながら挙手して発言されたことに「本当にびっくりし、感動した」とお話ししました。

小堺医師も、「皆さんと行動を共にしたことには全く悔いがない」と発言されました。また、参加者がそれぞれ「松代病院に助けられた」「自分の家族が小堺先生にお世話になった」と発言されました。元気が出る楽しい会でした。

スポーツ協会の祝賀会

1月24日、上越市スポーツ協会の新年祝賀会に参加しました。スポーツ協会は、様々なスポーツ協議団体の連合組織です。出席した加盟団体だけでも、陸上、水泳、テニス、剣道、柔道、相撲など25団体ありました。

開会では小菅上越市長がご挨拶。市長は、高校時代陸上部に所属してインターハイに出場されたとか。その後は懇親会になりました。皆さんとお話をする中で、練習会場の確保が共通の課題なのではないかと思いました。住民の皆さんが気軽にスポーツできる環境づくりが重要なんだと認識しました。

県民が議会を注視しなければいけない今だからこそ

傍聴に行きましょう！

2026年3月5日(木)

★集合時間12時(場所:寺町駐車場)

★大湯・柿崎方面などは途中での乗車も可能ですので申し込み時にお申し付けください。

★参加費 5,000円(当日承ります)

★帰りは馬場も乗車。車中でお弁当を食べながら帰宅(19時半頃到着予定)

県議会傍聴ツム！

お申込み先
馬場ひでゆき事務所
☎025-546-7110

発行責任者:馬場ひでゆき事務所
住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号
ダイヤパレス高田式番館2階
電話 025-546-7110
ファックス 025-546-7666
メール kengi-babahideyuki@wind.ocn.ne.jp